

2022年度「学習時間と学習経験に関するアンケート調査」（1～4年生対象）

分析結果報告

【回答者数内訳】

		学科														合計
		日文	歴文	心理	福祉	現代	初教	環境	管理	健康	安全	ビジ	会フ	英コミ	国際	
学年	1 人数	90	101	60	75	75	88	161	81	57	44	99	62	139	85	1217
	回答率(学科内%)	65.2%	92.7%	50.8%	92.6%	72.1%	80.0%	67.9%	95.3%	67.9%	45.8%	84.6%	74.7%	65.6%	72.6%	72.0%
2	人数	32	85	46	69	61	66	16	62	14	19	12	21	69	38	610
	回答率(学科内%)	28.1%	86.7%	43.4%	80.2%	60.4%	55.0%	7.8%	68.9%	18.9%	25.7%	11.3%	33.3%	42.1%	34.5%	40.3%
3	人数	72	96	64	57	32	51	17	67	34	11	44	26	52	22	645
	回答率(学科内%)	61.5%	94.1%	66.7%	78.1%	30.8%	46.8%	8.1%	94.4%	42.5%	13.4%	41.5%	42.6%	26.0%	22.2%	42.7%
4	人数	39	67	60	63	25	61	22	36	8	26	50	41	65	45	608
	回答率(学科内%)	30.0%	68.4%	53.1%	76.8%	24.8%	52.6%	10.4%	56.3%	11.8%	31.3%	46.7%	53.2%	34.8%	43.3%	39.5%

【回答者の本学志望順位】

列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。

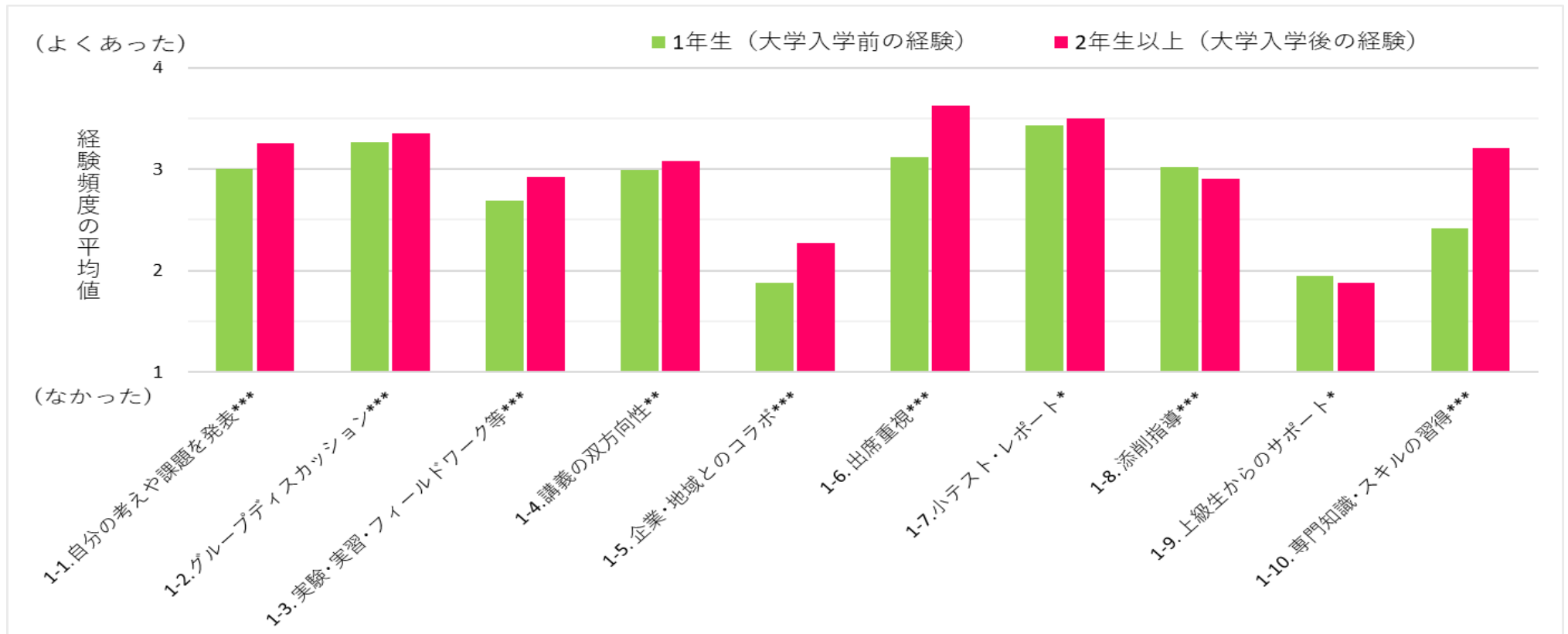
		志望順位				合計	
		第1志望	第2志望	第3志望	第4志望以降		
学年	1	人数	695	198	142	182	1217
		%	57.1%	16.3%	11.7%	15.0%	100.0%
	2	人数	339	114	52	105	610
		%	55.6%	18.7%	8.5%	17.2%	100.0%
	3	人数	346	102	61	136	645
		%	53.6%	15.8%	9.5%	21.1%	100.0%
	4	人数	339	92	53	124	608
		%	55.8%	15.1%	8.7%	20.4%	100.0%
合計		人数	1719	506	308	547	3080
		%	55.8%	16.4%	10.0%	17.8%	100.0%

★全学年とも第1志望の学生が55%前後で最も多いが、1年生は他の学年に比べ、第3志望の学生の割合が多めであり、第4志望以降の学生の割合が少なかった。また、3年生は他の学年よりも第4志望以降の学生が多めであった。なお、昨年度の調査結果と比べると、1年生の第1志望から第4志望以降までの学生の割合は、ほぼ同値であった。

【授業における経験の頻度1】

1年生(大学入学前の経験)と2年生以上(大学入学後の経験)で比較した。縦軸は、「よくあった」を4点、「時々あった」を3点、「あまりなかった」を2点、「なかった」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど、授業における経験の頻度が高いことを示している。

(1年生と2年生以上の回答の間で、統計学的に有意差が認められた項目に*を記載した。***: $p<.001$, **: $p<.01$, *: $p<.05$)

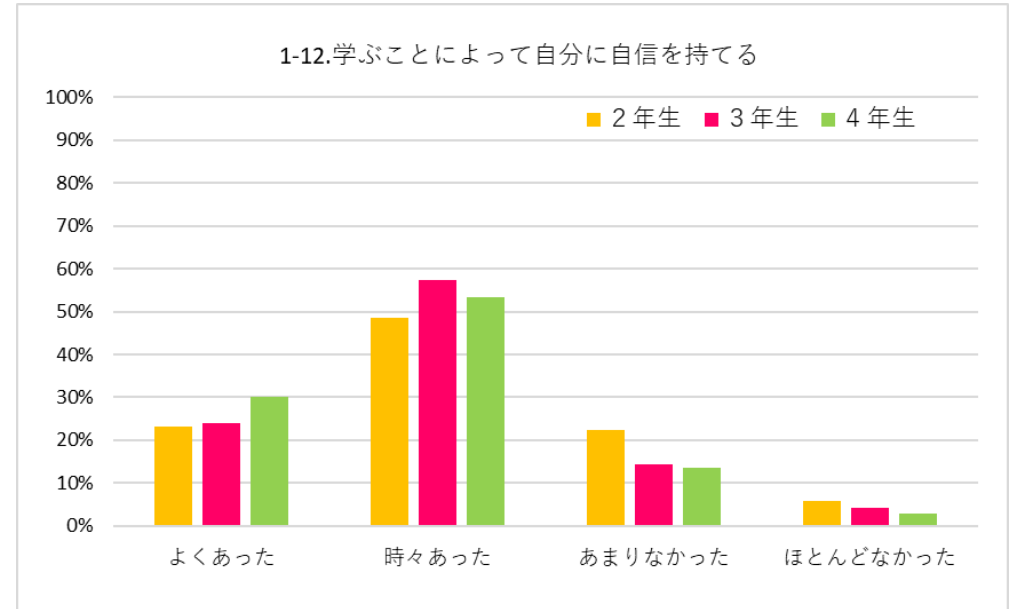
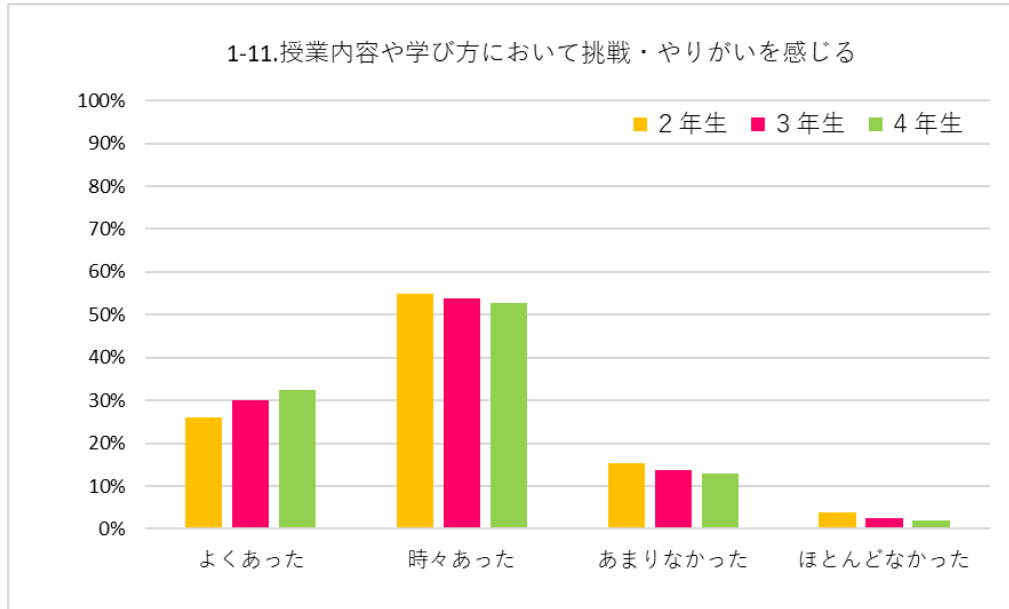


★「1-8.添削指導」と「1-9.上級生からのサポート」は、大学入学前(1年生)の方が多かった以外は、いずれの項目も大学入学後(2年生以上)の方が、経験している頻度が高かった。特に、「1-6.出席重視」と「1-10.専門知識・スキルの習得」において、差が顕著であった(効果量：大または中)。

なお、いずれの項目とも昨年度とほぼ同様の値であった。

【授業における経験の頻度2(2～4年生対象)】

「世界大学ランキング」に対応した2項目について回答の分布を示す。



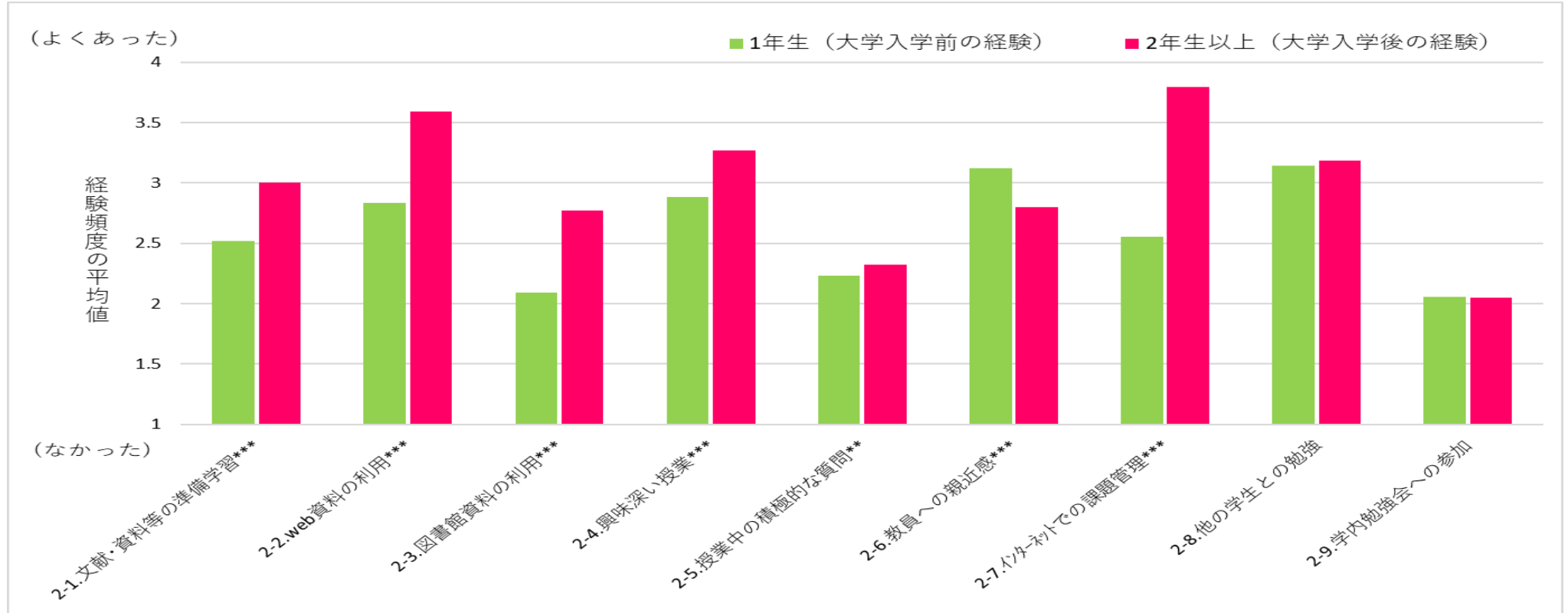
★約8割の2～4年生が、「1-11.授業内容や学び方において、挑戦・やりがいを感じる」経験や「1-12.学ぶことによって自分に自信が持てる」経験があった(「よくあった」+「時々あった」)と回答した。

肯定率(「よくあった」+「時々あった」)に関して、「1-11.授業内容や学び方において、挑戦・やりがいを感じる」経験は、2年生(80.8%)、3年生(83.7%)、4年生(85.1%)と、学年が上がるにつれて増加する傾向がみられた。「1-12.学ぶことによって自分に自信が持てる」経験も、2年生(71.8%)、3年生(81.3%)、4年生(83.6%)と、学年が上がるにつれて増加する傾向がみられた。なお、「1-12.学ぶことによって自分に自信が持てる」経験の肯定率は、3年生では昨年度(2年生)より約5%、4年生では昨年度(3年生)より約3%増加していたが、「1-11.授業内容や学び方において、挑戦・やりがいを感じる」には変化はみられなかった。

【授業および授業外での取り組みの経験頻度】

1年生(大学入学前の経験)と2年生以上(大学入学後の経験)で比較した。縦軸は、「よくあった」を4点、「時々あった」を3点、「あまりなかった」を2点、「なかった」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど、授業における経験の頻度が高いことを示している。

(1年生と2年生以上の回答の間で、統計学的に有意差が認められた項目に*を記載した。***: $p<.001$, **: $p<.01$)



★ほとんどの項目で、大学入学前(1年生)よりも、大学入学後(2年生以上)の方が、経験している頻度が高かった。特に、「2-1.文献資料等の準備学習」「2-2.web資料の利用」「2-3.図書館資料の利用」「2-4.興味深い授業」「2-7.インターネットでの課題管理」において、差が顕著であった(効果量：大または中)。ただし、「2-6.教員への親近感」は、大学入学前(1年生)の方が大学入学後(2年生以上)よりも高く、「2-8.他の学生との勉強」と「2-9.学内勉強会への参加」には有意差が認められなかった。また、2年生以上で「2-2.web資料の利用」と「2-7.インターネットでの課題管理」が、昨年度と同様に3.5を越えて高かった。

【留学経験】 列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。
(ただし、1年生は大学入学前の経験、2～4年生は大学入学後の経験)

		2-10. 海外留学経験				
		留学経験なし	半年未満	半年以上	合計	
学年	1	人数	1006	192	23	1221
		%	82.4%	15.7%	1.9%	100.0%
2	人数	520	79	16	615	
	%	84.6%	12.8%	2.6%	100.0%	
3	人数	520	109	13	642	
	%	81.0%	17.0%	2.0%	100.0%	
4	人数	492	90	26	608	
	%	80.9%	14.8%	4.3%	100.0%	
合計	人数	2538	470	78	3086	
	%	82.2%	15.2%	2.5%	100.0%	

★1年生(大学入学前)と2・3年生(大学入学後)よりも4年生(大学入学後)の方が、半年以上の留学経験が多かった以外には有意差は認められなかった。各学年とも「留学経験なし」が8割以上を占め、「半年未満」も15%前後であった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と考えられる。

【海外旅行経験】 列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。
(ただし、1年生は大学入学前の経験、2～4年生は大学入学後の経験)

		2-11. 海外旅行経験				
		0回	1回	2回以上	合計	
学年	1	人数	669	187	360	1216
		%	55.0%	15.4%	29.6%	100.0%
2	人数	273	148	190	611	
	%	44.7%	24.2%	31.1%	100.0%	
3	人数	292	141	207	640	
	%	45.6%	22.0%	32.3%	100.0%	
4	人数	240	164	204	608	
	%	39.5%	27.0%	33.6%	100.0%	
合計	人数	1474	640	961	3075	
	%	47.9%	20.8%	31.3%	100.0%	

★2回以上の海外旅行経験者は3割前後で学年による差はなく、1回が2年生と4年生で多く、1年生(大学入学前)で少ないほか、0回は1年生で5割を越えて多く、4年生では約4割と少なかった。1年生で海外旅行未経験者が多いのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と考えられる。

【普段の(期末試験時は除く)授業外学習時間】

列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。

		普段の学習時間(1日平均)				
		1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上	合計	
学年	1	人数	466	640	107	1213
		%	38.4%	52.8%	8.8%	100.0%
	2	人数	299	267	37	603
		%	49.6%	44.3%	6.1%	100.0%
	3	人数	269	292	79	640
		%	42.0%	45.6%	12.3%	100.0%
	4	人数	362	186	57	605
		%	59.8%	30.7%	9.4%	100.0%
合計		人数	1396	1385	280	3061
		%	45.6%	45.2%	9.1%	100.0%

【期末試験時の授業外学習時間】

列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。

		期末試験時の授業外学習時間				
		1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上	合計	
学年	1	人数	249	561	353	1163
		%	21.4%	48.2%	30.4%	100.0%
	2	人数	128	241	227	596
		%	21.5%	40.4%	38.1%	100.0%
	3	人数	127	262	241	630
		%	20.2%	41.6%	38.3%	100.0%
	4	人数	214	257	122	593
		%	36.1%	43.3%	20.6%	100.0%
合計		人数	718	1321	943	2982
		%	24.1%	44.3%	31.6%	100.0%

★普段、授業時間外に1日1時間以上学習する学生は、1年生で6割強、2年生で約5割、3年生で約6割、4年生で約4割であった。昨年度に比べ、1年生で1割減、2年生で3割減となったが、3年生と4年生では増減がなかった。

入学年度別にみると、授業時間外に1日1時間以上学習する学生は、昨年度の1年生では7割強であったが、今年度の2年生では約5割。昨年度の2年生では約8割であったが、今年度の3年生では約6割。昨年度の3年生では約6割であったが、今年度の4年生では約4割といずれも減少していた。一時的に新型コロナウイルスの感染拡大が収まり、学習以外の活動に向ける時間が増えたことが理由の1つと考えられる。

なお、オンライン授業が主体の2020年度は、授業時間外に1日1時間以上学習する学生は、1年生で9割弱、2・3年生で約6割、4年生では5割弱であったが、対面授業であった2019年度は、1年生で約4割、4年生で約3割となっていた。2022年度の方が1年生で2割強、4年生で1割程度多い。

★期末試験時には、1日1時間以上学習する者が、1～3年生では約8割、4年生では6割強みられた。

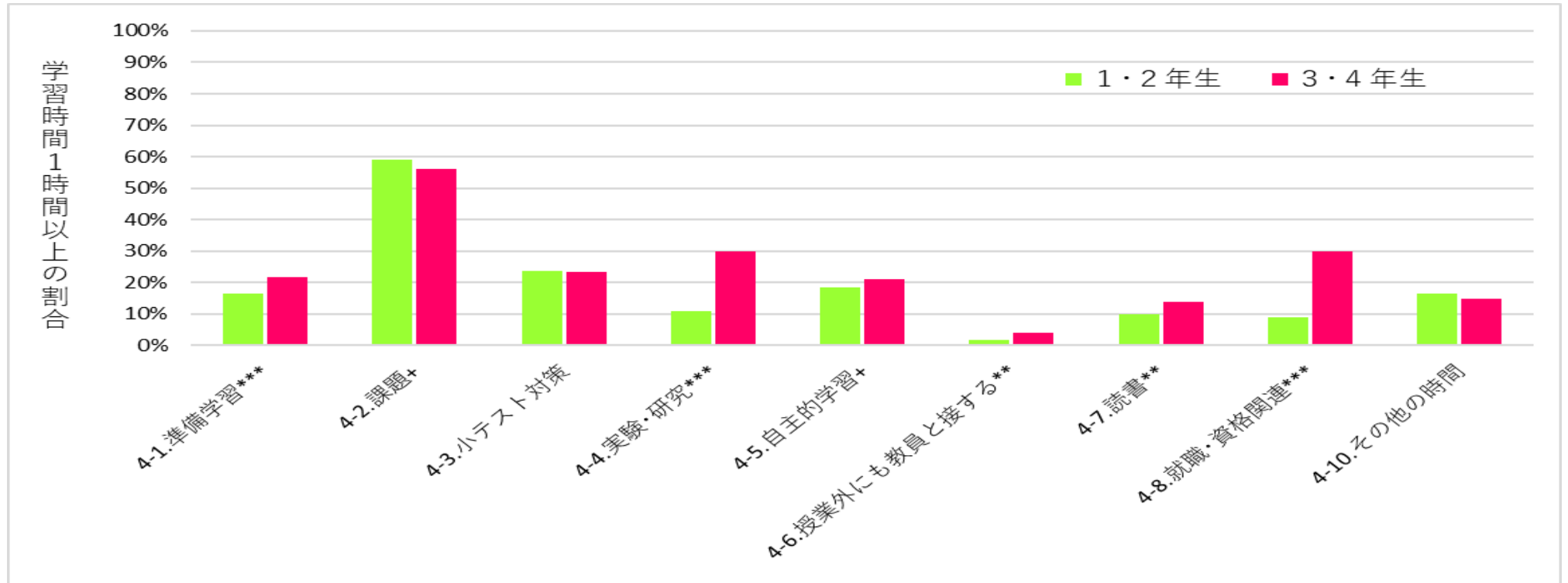
学年差を見ると、「3時間以上」の回答は2・3年生で多く、4年生では相対的に少なかった。この傾向は昨年度と同様であった。

対面授業であった2019年度の調査では、「3時間以上」と回答したのは1年生・4年生ともに約2割であったことから、4年生以外は2019年度より1～2割程度多くなっている。

【普段の授業外学習時間の内訳】

1・2年生と3・4年生で比較した。縦軸は、1日の平均学習時間を「1時間以上」と回答した者の割合を示す。

(1・2年生と3・4年生の回答の間で、統計学的に有意差が認められた項目に*を記載した。***: $p<.001$, **: $p<.01$, +: $p<.10$)

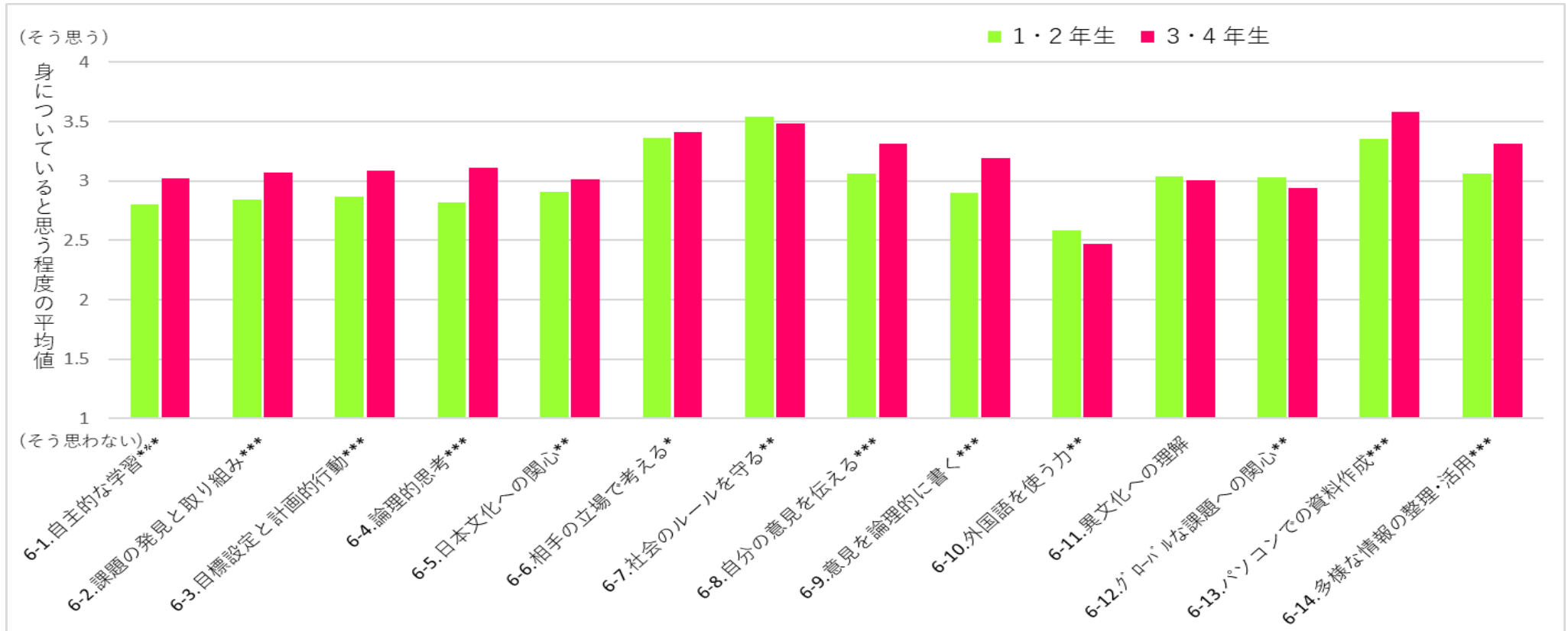


★1・2年生・3・4年生ともに授業外での学習は、おもに「4-2.課題」の実施であり、「4-1.準備学習」「4-3.小テスト対策」「4-5.自主的学習」も、2割前後が多い。また、「4-2.課題」「4-3.小テスト対策」「4-10.その他の時間」以外は、3・4年生の方が1・2年生よりも時間が費やされており、3・4年生になると主体的な学習の幅が広がるのがうかがえた。特に、「4-4.実験・研究」と「4-8.就職・資格関連」は、3・4年生の方が1・2年生よりも2割程度多かった。さらに、「4-10.その他の時間」の具体例としては、語学の勉強やプロジェクト活動のほか、資格取得のための勉強などが挙げられた。なお、全体的に昨年度とほぼ同様の結果であったが、1・2年生の「4-2.課題」が1割程度、「4-1.準備学習」が5%程度減少していた。

【現在身についていると思うか】

1・2年生と3・4年生で比較した。縦軸は、「そう思う」を4点、「ややそう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど、現在身についていると思う程度が高いことを示している。

(1・2年生と3・4年生の回答の間で、統計学的に有意差が認められた項目に*を記載した。***: $p<.001$, **: $p<.01$, *: $p<.05$)



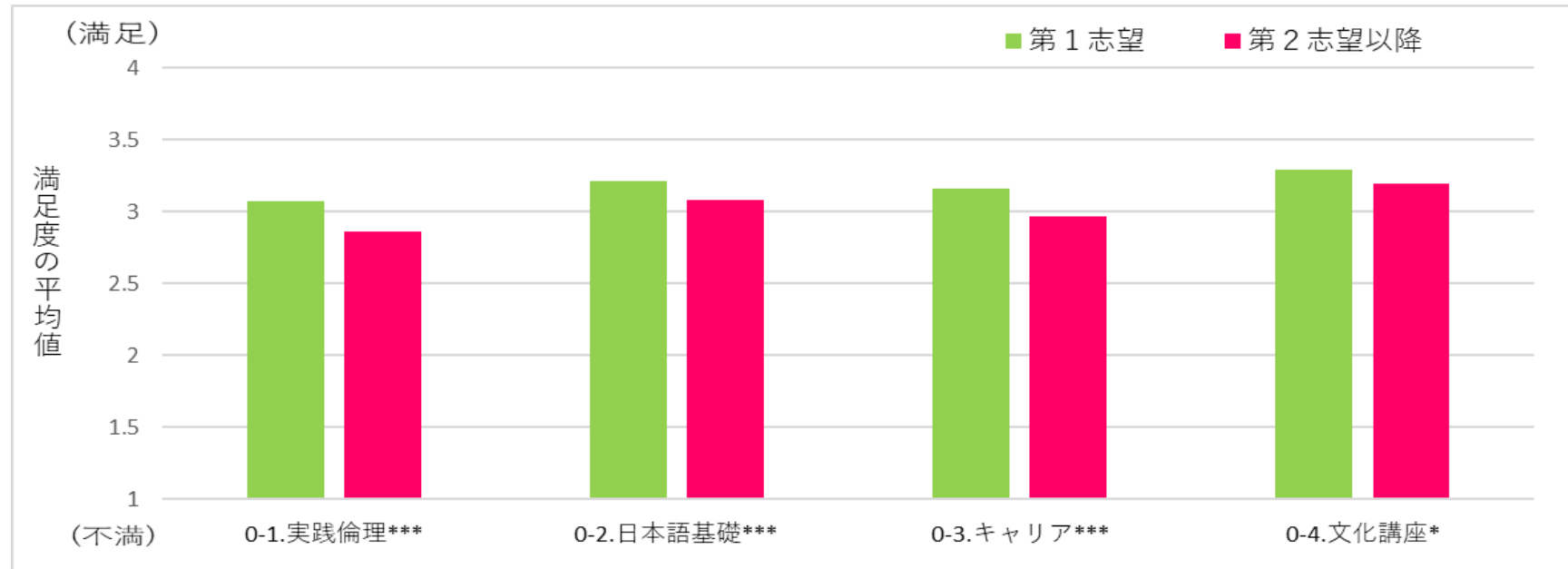
★10項目で、1・2年生よりも3・4年生の方が、身についていると思う程度が高かった。具体的には、「6-13.パソコンでの資料作成」「6-14.多様な情報の整理」といった情報リテラシーに関わる力、「6-1.自主的な学習」「6-2.課題の発見と取り組み」「6-3.目標設定と計画的行動」「6-4.論理的思考」「6-6.相手の立場で考える」「6-8.自分の意見を伝える」「6-9.意見を論理的に書く」といった社会人基礎力のほか、「6-5.日本文化への関心」は、3・4年生の方が身についていると感じていた。それに対して、「6-7.社会のルールを守る」「6-10.外国語を使う力」「6-12.グローバルな課題への関心」は、1・2年生の方が高かったほか、「6-11.異文化への理解」には差がなかった。ただし、有意差が認められた項目の全てでその差は大きくなかった(効果量は小またはほとんどなし)。

なお、総じていずれの項目も昨年度の値とほぼ同様であった。

【本学独自の教育課程についての満足度と志望順位との関連(2～4年生対象)】

第1志望で入学した者と第2志望以降で入学した者で比較した。縦軸は、「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど満足度が高いことを示している。

(第1志望で入学した者と第2志望以降で入学した者の回答の間で、統計学的に有意差が認められた項目に*を記載した。***: $p<.001$, *: $p<.05$)



★本学独自の教育課程のいずれの科目においても、第1志望で入学したの方が、第2志望以降で入学した者よりも満足度が高かった。しかし、効果量は小さく、差はほとんどないといえる。また、いずれの群の平均値も中点(2.5)を越えて3点前後であることから、第2志望以降で入学した者もどちらかといえば満足を感じることができていると考えられる。なお、総じて平均値は昨年度と同様であった。